

令和3年度 教養学部学校教育学科 一般選抜（中期日程）講評

○課題文について

課題文は、田坂広志「直観を磨く 深く考える七つの技法」（2020年 講談社）を一部改変して用いた。

○設問1 傍線部アで、筆者は「『エゴ』というものに、どう処すれば良いのか。」と述べていますが、筆者は、「エゴ」について、どう処すれば良いと考えていますか。課題文に即して、二〇〇字以内で説明しなさい。

【出題意図と評価のポイント】

課題文を正確に読み取り、それに基づいて文章を構成する力が備わっているかを見る設問である。「エゴ」というものに、どう処すればよいか、ということを本文中より捉えて、精度の高い文章で記述したものを高く評価した。

【講評】

解答は概ね出題意図を踏まえたものであったが、「エゴ」の定義など、一つの事柄のみの説明に終始したものや、本文中の文言を羅列するに留まり、文章構成力に欠ける解答も散見された。

○設問2 傍線部イで、筆者は「心の奥深くに潜む、この落とし穴を見つめなければならぬ。」と述べていますが、あなたはこれについて、どう考えますか。課題文を踏まえながら、あなたの考えを、自分の体験や見聞を交えて八〇〇字以内で述べなさい。

【出題意図と評価のポイント】

筆者の主張を踏まえて、適切な事例を挙げて、論旨の通った文章で記述しているかを問う設問である。「我々の心の奥深くに潜む落とし穴」と「他人の不幸は、蜜の味がする」という言葉に内包される人間の「心の中の『エゴ』」などについて、論理的な文章構成で述べたものを高く評価した。

【講評】

自分の体験や見聞を根拠としながら「心の中の『エゴ』」について述べた解答が多く見られたが、出題ポイントである「他人の不幸は、蜜の味がする」という言葉の意味に含まれる人間の「心の中の『エゴ』」について深く考察し、「他者への共感の心を大切にする」ということにまで踏み込んで、具体的に述べられた文章は少なかった。